

福祉サービス第三者評価結果報告書(令和4年度)

2023 年 2 月 28 日

港区長 殿

郵便番号 176-0001
所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社日本生活介護

認証評価機関番号 機構 02 — 015
電話番号 03-3991-8440
代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり調査を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	山本 吉士郎	経営	H1201029
	②	萩原 康子	福祉	H1801071
	③	島田 きぬえ	福祉	H1901041
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
調査対象事業所名称	港区第二青南保育室			
事業所連絡先	郵便番号	107-0062		
	所在地	東京都港区南青山4-19-5		
	電話番号	03-5770-5366		
事業所代表者氏名	園長 上原 珠恵			
契約日	2022 年 6 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2022 年 8 月 25 日			
利用者調査結果報告日	2022 年 11 月 14 日			
自己評価の調査票配付日	2022 年 8 月 24 日			
自己評価結果報告日	2022 年 11 月 14 日			
訪問調査日	2022 年 11 月 22 日			
評価合議日	2022 年 11 月 22 日			
コメント (利用者調査の工夫点、補助者・専門家等の活用などを記入)	利用者(保護者対象)調査は、アンケート用紙と第三者評価の目的や主旨、問い合わせ先等を説明した文書をつけて、事業所から手渡しで配布をした。記入後は返信用封筒に入れ、評価機関へ直接返送してもらった。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

2023 年 月 日

事業者代表者氏名 印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)子ども一人ひとりの心に寄り添い、生きる喜びと生きる力を育む。 2)子どもも保護者も職員も安心して過ごせる温かい雰囲気保育園をつくる。 3)保護者支援の観点から、楽しくも大変な子育ての負担を理解し、保護者の気持ちに寄り添いサポートをする。 4)社員がチームアソシエとして一人ひとりが力を発揮し、向上心を持っていきいきと働きつづけられる環境をみんなで作る。 5)感謝の気持ちを持って地域の方たちとの繋がりを大切にし、共に子どもの生命を守る。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	(1)職員に求めている人材像や役割 ・チームとして「おかげさま」「おたがいさま」の気持ちを持ち相手の幸せを願う利他の精神が持てる人。 ・自ら考え、実行し主体性・責任感を持って業務に取り組める人。 ・保護者支援を理解し、温かい気持ちで保護者に接し”親育て”が出来る人。 ・子どもの人権に配慮し、子ども主体の保育が実践できる人。 (2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) ・大切な子どもの命を守る為に考えられるあらゆる危険を見つけ、回避するために対策を練りしっかりと実践出来ること。 ・保育環境で最も大切なのは“人的環境”だと理解し、誰もがストレスなく平穏で働く為に、チームプレイを乱さず、個人的感情を入れず、気持ちの良い職場の人間関係に最善を尽くせること。 ・常に向上心を持ち、自身の保育を省みて自己成長を怠らず積極的に学べること。

調査対象

全園児世帯の保護者を対象とした。
複数の在園児がいる場合は、最年少の子どもに対しての回答をお願いした。

調査方法

園から調査票を配付してもらい、記入後は返信用封筒に入れ、評価機関へ直接返送いただいた。

利用者総数

75

利用者家族総数(世帯)

63

共通評価項目による調査対象者数

63

共通評価項目による調査の有効回答者数

56

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

88.9

利用者調査全体のコメント

調査対象者63世帯中56世帯から回答を得ることができた。満足度の高い項目として、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っていますか」「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっていきますか」「保育所内の清掃、整理整頓は行き届いていますか」「提供される食事は、子どもの状況に配慮されていますか」「子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係はありますか」などがあげられる。
総合的な満足度は、回答者全員が「大変満足、満足」と回答し、「どちらともいえない」「不満」の回答は見られなかった。また、「明るく元気な雰囲気を通うのが楽しいです」「教育的な活動やプログラムが多彩で子どもの成長に役立っています」「コロナ禍でもいろいろ工夫してくれて感謝しています」「保護者とのコミュニケーションを重視してくれています」「季節やイベントも考えられた給食がとても良く、子どもも好き嫌いが減ってきました」「日々の生活の様子をもう少し聞けると嬉しいです」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	56	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答している。 「他のクラスの先生方も子どもを見てくれるのでとても頼りになります」「友達との交流で良い影響を受け日々成長を感じます」「家ではなかなかできない活動を子どもも楽しんでます」「アートやリトミックなどプログラムが多彩です」「専門的な外部講師による活動はありがたいです」などのコメントがあがっている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	56	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答している。 「いろいろなことをやってくれるので、子どもの興味の幅が広がりました」「専門家によるプログラムが豊富でとても刺激になるようです」「イングリッシュやスポーツなど家ではできない経験ができています」「季節を取り入れたイベントなどを楽しめています」「昆虫や植物を育てたりが楽しみなようです」などのコメントがあがっている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	55	1	0	0
55名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答し、「いいえ」の回答は見られなかった。 「すごくおいしいと子どもが言ってます」「家では食べない物も園では食べられているようです」「すべて手作りで季節の食材なども工夫もされていて、子どもも喜んでます」「食べられる物が増えて助かります」「苦手なものも頑張って食べたなど感想をよく話してくれます」などのコメントがあがっている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	46	10	0	0
46名が「はい」、10名が「どちらともいえない」と回答し、「いいえ」の回答は見られなかった。 「コロナ禍ですが感染対策をしながら、たくさん遊ばせてもらっています」「園庭は小さいが公園やグラウンドに行って遊んでいます」「都内の農家さんにお邪魔しての収穫イベントなど、個人ではできない体験ができています」「コロナ禍のため行事は少ないです」などのコメントがあがっている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	50	0	1	5
50名が「はい」、1名が「いいえ」と回答し、「どちらともいえない」の回答は見られなかった。 「いつもとても助かっています」「保護者の気持ちにも寄り添ってくれます」「柔軟に対応し温かい言葉もかけてくれて救われました」などのコメントがあがっている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	50	6	0	0
50名が「はい」、6名が「どちらともいえない」と回答し、「いいえ」の回答は見られなかった。 「常に子どものことを考え安全確保のために努力してくれています」「再発防止の努力をしていて、年々安全になっていると思います」「毎年アップデートされて見直されているようで感心しました」「何かあった時は丁寧に説明してくれます」などのコメントがあがっている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	47	8	1	0
47名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 「かなり前から予定を教えてください」「コロナ禍でも工夫してくれています」「面談はもう少し遅い時間帯もあると助かります」「仕事でどうしても無理をしないと参加できないこともあります」などのコメントがあがっている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	55	1	0	0
55名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答し、「いいえ」の回答は見られなかった。 「気軽に相談できます」「先生の方から気づいた時に面談の提案をしてくれることもあります」「お迎え時に今日頑張ったことなども話してくれて、相談しやすい雰囲気です」「本当はもう少しこまめに連絡し合いたいです」などのコメントがあがっている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	56	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答している。 「いつもきれいです」「とても衛生的です」「避難の妨げになるようなものは置かれていません」「お掃除の職員さんのことも子どもは大好きです」などのコメントがあがっている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	55	1	0	0
55名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答し、「いいえ」の回答は見られなかった。 「先生方は制服のような服装をされているので統一感や清潔感があります」「元気で丁寧な態度です」「フレンドリーでとても助かっています」「泣いている子や困っている保護者にきちんと対応してくれて本当に良い雰囲気です」などのコメントがあがっている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	54	2	0	0
54名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答し、「いいえ」の回答は見られなかった。 「状況によって連絡をくれたり病院に連れていってくれます」「すぐに患部を冷やしたり、消毒してくれます」「発熱時はお迎えまで職員室で休ませてくれます」「コロナ禍のため体調不良に敏感です」などのコメントがあがっている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	46	8	0	2
46名が「はい」、8名が「どちらともいえない」と回答し、「いいえ」の回答は見られなかった。 「子どもたちのことを考えて対処してくれていると思います」「主観なしに事実を教えるのでよいと思います」「まだその機会がありません」などのコメントがあがっている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	54	2	0	0
54名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答し、「いいえ」の回答は見られなかった。 「子どもの気持ちに寄り添ってくれていると感じます」「それぞれの個性や性格を考慮して対応してくれています」「先生によって多少は差があると思います」などのコメントがあがっている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	52	3	0	1
52名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答し、「いいえ」の回答は見られなかった。 「子ども本人のいないところで伝えてくれるなど、配慮されています」などのコメントがあがっている。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	52	4	0	0
52名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答し、「いいえ」の回答は見られなかった。 「入り口にわかりやすく工夫して掲示されています」「連絡帳やホワイトボードで活動内容を把握できます」「お迎え時に保育方針を簡単に伝えてくれることもあります」「日中の活動もアプリで共有してもらえると嬉しいです」などのコメントがあがっている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	54	1	0	1
54名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答し、「いいえ」の回答は見られなかった。 「先生方の連携もきちんとされていて、必ず回答してくれます」「すぐに対応してくれます」「もう少し日中の様子を知りたいと要望したら、多くの先生方が伝えてくれるようになりました」などのコメントがあがっている。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	35	13	2	6
35名が「はい」、13名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 「園からのおたよりやポスター掲示でわかります」「あまりそのような機会がないです」などのコメントがあがっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
	カテゴリ1の講評		
	職員は「クレドカード」を携行して、会社の理念・方針に接することができる 港区第二青南保育室は㈱アソシエ・インターナショナルが港区から運営委託を受けて運営している。園としての一番大切にしている約束として「子ども一人ひとりの心に寄り添い、生きるよろこびと生きる力を育む。」をあげている。その他、クレドカードにまとめて、職員全員が携行していつも見る事ができるようにしている。また、理念を掲示して園を訪問した誰でもが見ることができるようにしている。保護者には入園時に配布する「ガイドブック(入園のしおり)」によって、園の考え方を表明すると同時に、ホームページ、園だより等で説明している。		
	園長はリーダーとして組織の先頭に立ってその役割を発揮している 園長は、常に港区及び本社(会社)の方針を実践するため、職員の先頭に立ってその役割の発揮に努め、職員配置や職務分担の決定、職員の育成を行っている。職員との定期的な面談によって、個々の希望や特性を把握して、本社と連携して計画的に研修への参加を促している。同時に安全管理や年度計画の推進を統括し、保護者支援、地域との交流、港区の所管部署での会議への参加等多岐にわたる役割を担っている。本社担当部門のSV(スーパーバイザー)は園との連携をスムーズに行うために、常に園をサポートできる役割になっている。		
	重要な案件は、園長ほか管理層が出席するリーダー会議で、審議、決定している 園内で決めるべき重要な案件は、毎月のリーダー会議で決定し職員会議を通じて、全員に通知している。同様に港区からの通知も園長を通じて、職員や場合によっては保護者に知らせている。その際に決定に至った背景についても説明している。利用者(保護者)に関わる案件は、配信、手紙や掲示及び、個人面談を通じて伝えている。同時に、透明性を図るために、決定の内容や経緯の説明に留意している。本社での決済事項は、担当部門を通じて決済を仰いでいる。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリ1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6		
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 標準項目 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ●あり ○なし ○非該当		
標準項目 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ●あり ○なし ○非該当		
標準項目 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ●あり ○なし ○非該当		
標準項目 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ●あり ○なし ○非該当		
標準項目 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ●あり ○なし ○非該当		
標準項目 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ●あり ○なし ○非該当		
サブカテゴリ2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5		
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 標準項目 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ●あり ○なし ○非該当		
標準項目 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ●あり ○なし ○非該当		
標準項目 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ●あり ○なし ○非該当		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 標準項目 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ●あり ○なし ○非該当		
標準項目 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ●あり ○なし ○非該当		
カテゴリ2の講評 保護者の要望や職員の意見を知るためにアンケートや面談を利用している 利用者の要望を知るため、保護者参加の行事の後にアンケートを実施している。この結果を分析して、次年度の運営の参考にしている。保護者会での意見や、登降園時の会話などから内容を把握、分析してニーズとして捉えるよう努めている。職員には日頃の会議で、皆が発言できるような取り組みを行っている。また、保育園の自己評価を年1回行い、自己申告書による人事考課面談を年2回行い、出された意見や意向を分析して、課題の抽出をして園の運営に役立てている。さらに、内容によっては本社に報告し、全社での共有を図っている。 年度事業計画は園運営の基本を示し、前年度の検証結果を参考にして作成している 年度事業計画は、前年度の検証結果を総括し、新規の目標を加えて作成している。本計画は事業運営の基本となり、運営計画(保育定員の設定等)、実施状況ほか給食、健康管理の実施状況等を表明している。さらに、防災訓練計画や年間行事は関係機関の協力によって実行案を作成している。とくに、行事計画は、担当者が実行案を作成する際に必要予算や職員の負荷を検討の上決定している。計画類の進捗管理は、予実管理表等で職員会議の議題に上げて認識を共有している。また、全体的な計画および入園のしおりも同様に改訂して全職員に周知している。 指導計画は全体的な計画に基づいて、各クラスリーダーが中心になって作成している 指導計画は全体的な計画の下で作成している。各クラスリーダーが中心となり、子どもたちの実態の把握と発達に即した内容を盛り込んで案を作成している。これらを、職員会議にて、各職員間で十分に検討して決定している。また、期、月、週単位で着実な実行を確認している。計画は新たな環境変化等に対応して見直しや、修正をして目標達成に取り組んでいる。但し、昨年度はコロナ禍によるさまざまな計画変更に関わらず、職員の創意工夫やICTの導入によって、一定の目標は達成できたものと考えられる。		

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー3の講評
	保育サービス事業の従事者として、職員は倫理・規範意識を高めている 職員の法令順守の姿勢は児童福祉法、個人情報保護方針、就業規則等により、コンプライアンスの徹底を図っている。新入社員は、入社時のオリエンテーションによって詳しく説明を受けている。職員としてあるべき姿は、「クレド」に明記されており「チームアソシエの一員である私を含めて・子ども・保護者・社員・地域社会」に対してのあるべき姿を規定している。本社及び園は職員に対してこれらを意識して業務に当たるよう指導している。また、職員会議で唱和するなど継続的に意識できる機会を設けている。 意見・要望・苦情を受け付ける窓口を明示して、解決への手順を定めている 保護者から意見・要望・苦情を受けるための窓口は「入園ガイドブック(入園のしおり)」に園内、本社及び地区総合支所及び保育課の連絡先を明示している。当園では、これらを受けた場合、保護者への対応は自らの保育を振り返る機会として誠実に対応している。「ご意見箱」も玄関ロビーに設置している。苦情を受け付けた場合は、園内での情報伝達は定められた手順で、全職員が対応できるようにしている。同時に、苦情記録簿の記入によって、解決までの流れの検証や原因究明、再発防止に役立てている。 セルフチェックリストを用いて、子どもの気持ちを傷つける言動を防止している 「常に子どもの目線で考える保育を行う」を標榜し、一人ひとりの人権と意思を尊重した接し方を心がけている。とくに、保育者の自覚のない、虐待になりうる行為や言動は子どもが自ら訴えられないこともあることから、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を用いた定期的な人権研修によって注意喚起している。また、子どもが家庭での虐待等を受けている疑いのある場合には確認のため様々な方法でチェックしている。もし疑いを発見した場合は、外部機関と速やかに連携を図る仕組みができている。

4			リスクマネジメント		カテゴリー4
サブカテゴリー1(4-1)					
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる				サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる				評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目				
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている				○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている				○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している				○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる				○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる				○非該当
サブカテゴリー2(4-2)					
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている				サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている				評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目				
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている				○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している				○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている				○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している				○非該当
カテゴリー4の講評					
「命を預かる」という認識をもって、安心・安全な保育の提供を優先している 安全管理ミーティングを定期的に開き、インシデント・アクシデント、ヒヤリハットのレポートを基に、リスク対策の優先順位を付けている。優先順位の高いリスクに対しては、即時対応できるようにしている。「クレド」で掲げられているように、『「命を預かる」という認識を持ちます。』の下、救命救急の重要性を認識して、定期的に講習の受講や訓練によって緊急時に備えている。特に、AEDの使用も含めて心肺蘇生を必須として。また、突発的に起こりうる誤飲・誤嚥・アナフィラキシー・熱性けいれん等には日頃から訓練を重ねている。 事故や大規模な災害に備えて、様々な状況を想定した上で定期的な訓練を行っている 園では定期的に火災や地震での避難訓練や不審者への対応及び引き取り訓練を行っている。訓練のプログラムは様々な状況を想定した上で作成している。当園は港区の傘下で運営しているため、大規模災害への対応、感染症対応などは区のガイドラインに準じて準備や備蓄、初動体制を決定している。また保護者との連絡網の確認訓練や、職員の参集条件の確認を行っている。さらに、港区では「緊急メール配信」によって、災害発生、臨時休園情報などを知らせる仕組みがあり、保護者への迅速な対応で混乱を防いでいる。 個人情報に関わる情報を管理する仕組みがあり、園はその基準の下で運用している 本社は、個人情報の重要性和コンプライアンスの遵守に向けて、入社時の研修で説明している。また、クレドで社員は「個人情報・会社機密情報の規則の順守に努める」事を宣言している。また、保護者には、重要事項説明書によって、当園に於ける個人情報に関する考え方を説明して、理解を受けている。同時に情報の保管方法や電子データ類のアクセス権限やパスワードを設定し、不要な情報漏洩を防いでいる。また、これらを運用していく上で、「使い方が分からない」などの問い合わせには、本社のヘルプデスクから各職員をサポートしている。					

5			カテゴリー5	
職員と組織の能力向上				
サブカテゴリー1(5-1)				
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる			○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している			○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している			○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている			○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている			○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている			○非該当
サブカテゴリー2(5-2)				
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている			○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる			○非該当

	カテゴリー5の講評
	職員の採用は本社が行い、園では応募者の見学と面談で仕事の内容を説明している 園では年度ごとに職員体制を決定する際に、必要人材の過不足について本社と情報を共有している。人材の募集は本社が行い、採用チームとSVが各園の状況を見ながら、採用数の目標を定め、教育機関、職員の卒業学校にアプローチしている。さらに、ハローワークや求人検索サイト、ホームページを通じたり、再雇用制度を利用したりしている。採用前には事前に見学を行い、園が大切にしている事を伝えると同時に応募者の保育観や希望を聞いて就業後のミスマッチを防いでいる。また、採用後は園長との面談によって、適切な人材配置を行っている。 キャリアパスの明示によって、目標管理と今後のキャリアプランプランの参考にしている 職員には等級別人事考課基準表を個別に渡して、その等級に期待される役割が分かるようにしている。職員は、目標を持ち、それを実現するための具体的な取り組みとそれを実現するための手段、期日等を記入して、上司に提出し、年2回の人事考課を受けている。人事考課では上司との面談も含めて振り返りを行っている。さらに、次の目標とそれを実現するために、評価と連動しながら人材育成に結び付けている。そのため、キャリアアップ研修や港区の行う保育施設研修等、研修に対する方向性について個々のキャリアパスを考慮した話し合いを行っている。 職員が心身ともに健康で保育に従事できるよう、働く環境の整備に気を配っている 有給休暇の取得状況、残業状況の把握等は専用の業務支援ソフトを使用して、園と本社で一体に管理している。園長は、職員の勤務状況の把握によって、看護師と連携しながら職員の身体面、精神面の健康管理を行っている。定期的な臨床心理士による巡回の仕組みもある。出産・育児休暇取得者も多く、休暇後の復職率が高いのもこれらの取り組みの成果と云える。また、職員同士の良好な人間関係を築いてお互いが気持ち良く働けるように、クレドを用いてその時々意識付けを行っている。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリ1(7-1)		
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)		
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)		
【課題・目標】前年度からの重要課題として、「保育園に対する信頼の回復」「安全管理の徹底」を掲げた。 【理由・背景】以前度重なる管理層(園長)の交代による保護者からの不信感を、少しずつでも回復する必要があった。また一昨年、幼児の飛び出し事故が発生して、保護者に不安を与え、払拭する必要があったことからこれらを目標とした。 【取り組み】以下の取り組みを行った。 ・全てのクラスの保護者会に園長が出席して運営方針や、内容を説明し、質疑応答では丁寧に回答した。 ・登降園時には園長が全ての保護者に声かけを行い、困り感やニーズの読み取り等コミュニケーションを重ねた。 ・保護者からの不安や不満等クレームの種を早急に摘み取るために、毎朝の連絡帳を管理層も確認し対応が必要なものには迅速に行った。 ・飛び出し事故後保護者会で事故の説明、謝罪を行い、再発防止のためマニュアルを作成し対策とした。 ・昨年度は改善したハード面(ナンバー錠)の説明を保護者会で行った。 【取り組みの結果と検証】 保護者の不信感は、アンケート結果から減ったものと判断できた。また職員の危機意識を高めるためにヒヤリハットの検証会等を活発に行うようにした。		
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった	
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評		
【取り組みの結果と検証と反映】 ハード・ソフト面の改善と、安全を脅やかす要因を少しずつでも消していくためにヒヤリハットへの関心は、今後とも続けて行くことが望まれる。また、ヒヤリハットを話し合う過程で、職員の様々な感性を理解し合えたことも、副次的な効果となった。 【評価に関する検証】 今回の取り組みに於いて、具体的な目標達成に向けた取り組みと、その検証及び今期への反映によって温かい雰囲気でも過ごせる保育園の運営につながるべく職員の意識が高まってきている。		
評価項目2		
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)		
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)		
【課題・目標】昨年度からの重要課題は「管理職の役割として、当園の職員全てが、自身に役割とやりがいをもって活躍できる環境を整える」を抽出した。 【理由・背景】定員減によって、職員体制の面で不安感があった。そのため管理職が保育や保育者へのサポート中心の運営を図り、職員との信頼関係の構築に力を注ぐ必要があった。 【取り組み】以下の取り組みを行った。 ・園長が1年間保育業務サポートして、保育現場を共有した。 ・中核リーダーを入れた園の運営と主体性を引き出す取り組み。 ・人事考課面談、職員面談を増やし、新人には振り返り面談を行った。 【取り組みの結果と検証】 トップダウンではなく、自分がそれぞれの役割を持ち主体性が発揮された。報告の流れが管理職⇄中核リーダー⇄一般職員と滞り無く、報連相ができた。 会議の場で、例え反対意見であっても伝える事ができるようになった。 以上の結果から、当社の約束にもある、「楽しくも大変な子育ての負担を理解し「ホッ」とできる空間とサービスを提供する」の目標に近づいていると実感している。		

目標の設定と 取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
【取り組みの結果と検証と反映】 今回の取り組みの中で、園内の階層間の報連相を実施する基盤が芽生えてきたことは、トップダウンではない、保育者の自主的な取り組みを奨励したことによる。特に、管理職が保育現場をサポートする事によって、現場の考えを共有することができたことにも起因する。 【評語に関する検証】 今回の取り組みに於いて、具体的な目標達成に向けた取り組みと、その検証及び今期へ反映させる事ができた。	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4 / 4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○ 非該当
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
ホームページやリーフレットで利用希望者にサービス内容の情報を発信している ホームページは、会社の事業案内やサービス概要情報が掲示され、ブログは、当保育室で発信している。夏祭り、運動会等の行事、枝豆の栽培やドーナツの日の食育活動が、写真(風景や場所・物品のみ)とコメントで紹介されている。子どもに経験させたいねらいや取り組み内容、活動方針が丁寧に補足されている。ホームページからリーフレットもダウンロードでき、園目標、保育園の一日、年間行事計画、定員数等、利用希望者が知りたい情報が簡潔にまとめられている。また、区保育室として、区の窓口やホームページでも情報提供されている。 園長会や主任会、地域の公的機関と積極的に連携を図り施設間の情報共有に努めている 園長は、毎月実施される、区保育室の定例園長会に参加し、区の保育状況や課題、伝達事項等の情報を運営に反映させている。主任会では、今年のテーマである「職員指導」について意見交換を行い、保育力の向上を目指している。地域では、赤坂地区運営会議に参加し新型コロナウイルス禍の感染状況や、赤坂地区総合支所主催の行事(SDGsスタンプラリーの活動)等、地域の施設として協働の姿勢を持ち、できる範囲で地域に根ざした取り組みをしている。また、園長・副園長は地域の保幼小連携会議に参加し、年長児の小学校交流体験等の実現に努めている。 保育室見学希望者には、申し込みから個別に配慮した対応を行い園の様子を伝えている 保育室見学は、申し込みから随時個別で受け入れを行っている。主に、初めて園を利用する0.1歳児の保護者が多く、園長、副園長が案内を担当している。リーフレットで、概要を説明し、その後、保育室環境や独自の取り組みについて作品や掲示物と併せ説明を行っている。保護者からは、アクティビティ内容や保育時間・土曜保育等に関する質問が多いが、第1子を預ける不安を受け止め、安心感に繋がる対応に配慮している。園舎に隣接する人工芝のグラウンドでは、散歩も含めて自然豊かな環境で遊ぶ子どもの姿も紹介している。			

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○ 非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当	
サブカテゴリ-2の講評			
入園前面接から職種間で連携しチームで保護者との信頼関係づくりに努めている 入園前面接は、保護者・子どもが安心して過ごせるよう温かな雰囲気配慮した小部屋で行っている。園長・保育士・看護師・栄養士が、入園面談シートで面談・記録を行い、保護者の負担軽減に配慮している。入園ガイドブックは重点ポイントを抑えた説明を行い、子どもの遊びの様子や保護者の意向の聞き取りを大事にしている。入園後も、情報量が多い入園ガイドブックの説明、子どもの生活や姿の変化、保護者の要望等に応じて、健康・栄養・保育と職種間チームで連携し、速やかに対応し保護者との信頼関係づくりに努めている。 慣れ保育は保護者の意向を汲み取りながら、愛着関係づくりを大切に進めている 入園後の慣れ保育期間は、保護者のニーズを受け止めながら、新しい環境に無理なく慣れるために担当制をとっている。担当制を維持するために、シフト変更等園全体で支え、子どもの状況を第一に慣れ保育を進めている。ミルクを受け付けなかった0歳児には、母親と相談し冷凍母乳を試したり、泣いている子どもに不安を現す保護者には丁寧に様子を伝えたり、保護者の気持ちに寄り添った支援をしている。入園式は、コロナ禍に配慮して、在園児は参加せず、内容の見直しを行い保護者と子ども、担任、管理職が参加して実現している。 退園後も関係機関と連携し、親子共に新しい環境に移行する支援の継続を行っている 転園や退園の子どもには、クラスでお別れ会を行い担任が手作りのメッセージカードを贈っている。園内の職員も声をかけ、送別の気持ちを伝えている。卒園児には、就学先に「保育指導要録」の送付や、保幼小や学童クラブとの情報共有を行い、新しい環境に慣れるための支援をしている。また、退園後も継続した支援が必要なケースは、保護者の承諾を得て関係機関と連携を図っている。新しい環境に不安を抱いている保護者の相談や、学校帰りに卒園児が立ち寄るなどした時は、快く受け入れ安心感につながる対応をしている。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当
サブカテゴリ-3の講評		
保育計画は保育目標の達成に向けて整っているが、保育計画の充実が望まれる 全体的な計画を基に、各年齢の長期・短期の保育計画は整合性が図られ、振り返りによるPDCAのサイクルも確立している。個別計画は、乳児クラスと配慮が必要な幼児クラスの子どもに応じて作成している。日々の子どもの変化や保護者の意向を共有し、家庭と連携した計画の見直しを適宜行っている。乳児個別計画と関連性を深めるためにも、乳児保育計画に月齢差・発達差の配慮や具体的な関り等の補足が望まれる。また、子どもの表出された姿だけでなく、内面の変化の推移や肯定的に捉える視点の記録に期待したい。		
日々の活動内容や行事の取り組み、保育計画の情報を保護者に発信している クラス担任は、園長・副園長と共に連絡帳や保護者との会話から、子どもの姿を把握しクラスミーティングで課題検討を行い、更に、園長や副園長、中核リーダーとも話し合い、内容の記録をしている。個人面談では、園と家庭との情報交換や子育て相談から、ケースに応じて保育計画に反映させている。日々の活動の様子や週の活動計画を、連絡ノートやクラス毎のホワイトボードに掲示し、修正は赤ペン訂正するなど、保護者が混乱なく情報把握できる工夫をしている。週単位の保育ドキュメンテーションも、園生活の様子を記録写真を添え発信している。		
保育支援システムを効果的に活用し、職場全体で子ども主体の保育に努めている 保育支援システムの導入で、保育計画、個別指導計画、発達経過記録、職員会議記録、昼ミーティング記録等、子どもの状況をタイムリーに見つ効果的に全職員で情報共有している。子どもの発達状況は、クラス別保育計画や個別計画で共有し、保育応援や朝夕合同保育・土曜保育等を担当する保育士は、担任と同様の関りや配慮ができ、子ども目線で考える保育の取り組みにしている。発達経過記録は、担任が日常の姿から定期的に確認し記録しているが、担任の主観を防ぐため園長や副園長が補完をしている。		

サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
入園時に「個人情報保護方針」と「データ提供」の説明を行い同意書で確認している 園のガイドブックに、個人情報に関する取り扱い事項が詳細に記載されている。入園面接時に重要事項説明として保護者に内容説明と承諾を得て、同意書で確認している。保護者から、日常の遊びや生活の様子を記録した写真データの共有要望があり、クラス代表保護者向けと個々の保護者向けに、データの複製と配合に関する取り扱いや個人情報保護の事項について説明を行い「データ提供に関する同意書」で確認している。また、小学校や保健所、他保育施設との情報共有については、保護者にその目的に同意を得て実施している。 職員は羞恥心に配慮した保育環境を整え、子どもの人権を尊重した保育を意識化している 子どもの恥ずかしいという感情に配慮して、年齢や活動に応じた工夫をしている。0.1歳児クラスは、おむつ交換場所を衝立で仕切り、幼児クラスはパーティションで仕切った空間で男女別に着替えを行っている。保育士は、相手が抱く感情に気付ける声かけをしたり、看護師からは、絵本を用いたプライベートゾーンの話の聞いたりして、子どもに解かりやすく人権尊重について伝えている。職員は「人権擁護のためのセルフチェックリスト」で自己点検と振り返りを定期的に行い、常に意識化するように努めている。 日々の保育の中で、子どもの意思や意見を尊重する関りを大事にしている 散歩先のリクエストを聞いたり、リズム表現では子どもの参加を無理強いせず、子どもの意思を尊重した対応をしている。子ども同士のケンカやトラブルの対応は、年齢や内容を見極めて介入するようにしている。自分の思いが先行する子どもと、ケンカになった原因を振り返り、自分と相手の思いを言語化して、子ども自身が考えるような関りをしている。年長児になると、子ども同士の話し合いを見守り、自分たちで解決する力を大事にしている。また、言葉の使い方や態度で相手を傷つけている時は、その場で子ども自身が気付く働きかけをしている。			

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○ 非該当
サブカテゴリ-6の講評		
各種マニュアルは閲覧できるように整備されているが、職員が活用できる工夫が望まれる マニュアルにより、会社側と区側のマニュアルが重なっているが、区のマニュアルを使用している。安全管理、アレルギー対応、防災、新型コロナ対策、職員の出退勤管理等がファイルされており、いつでも閲覧できるように整備されている。また、保育面では、「保育の考え方」マニュアルで、具体的な行動手順や内容、配慮等が明記されている。文章での情報量が多いマニュアルは、重要なポイントをフローチャート化して事務所に掲示する工夫がみられる。虐待対応の行動手順や記録様式等、管理職不在時も適切に対応できる改善が望まれる。 子どもの安全確認は、職員全員が危機感を持ちチームで取り組んでいる、 過去に発生した事故を教訓に、園全体で再発防止策を強化している。子どもの欠席確認は、システムに依存せず必ず職員が保護者に連絡を入れ、欠席理由の把握をしている。日中の子どもの人数確認は、点検表を用いて点検時間毎に、一人ずつ点呼したり担任以外が確認したり徹底した安全確保に努めている。また、散歩先の安全確認も共通認識で点検できるよう、散歩リュックにミニ版を入れ活用している。室内や園舎内安全点検は、共通の項目で定期的実施している。職員ができる範囲の補修箇所は「済」と記載し、そのままの放置を防ぐ対策をしている。 保護者ニーズや職員の意見を取り入れ、園全体でサービスの向上を目指している 職員の意欲を引き出し職員と共通認識を図るため、副園長や中核リーダーが保育支援に入り、担任保育士との意見交換や声を拾い園長につなげている。「ひまわり通信」や作品展の取り組みでは、職員のアイデアが豊富に反映されている。また、園長が幼児のリズム活動や職員のピアノ指導に参加することで、担任とのコミュニケーションや職員のモチベーション向上に良い影響をもたらしている。保護者からの意見や要望は、内容により会社や区、職員と管理職で検討を行い、結果を保護者が目につく場所に掲示しフィードバックしている。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 35 / 35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している
評価項目1の講評	
一人ひとりの発達過程を把握し、発達段階に応じた玩具を提供している 入園の際は、園長、看護師、栄養士が面談を行い、発達状況、アレルギーの有無、離乳食の形態等を確認し、一人ひとりの子どもの発達過程を把握している。入園後は、毎月の身体測定、定期健診等で発育状況を把握し、保護者支援システムを活用して記録し、保護者にも健診結果を知らせている。年度末に全クラスの玩具を一箇所に集めて総点検し、年齢に合った玩具を提供できるよう職員間で話し合い、発達段階に応じて整理・分類している。市販の玩具の他に職員による手作り玩具も揃え、季節や子どもの興味・関心に応じて入れ替えている。 アソシエの保育、クレドなど会社の方針に基づき、一人ひとりを尊重している 外国籍の子どもが在籍しており、普段から共に遊び生活する中で、文化や習慣の違いを自然に認めあえる環境がある。SDGsの取り組みでは、3～5歳児を対象に世界の貧困をテーマに「食べられない子どもがいる」ことを分かりやすく伝え、食べ物を大事にすることや互いを尊重し助け合うことの大切さを知らせている。カンボジアの服装をはじめ、世界の服飾文化にも触れている。朝夕保育は合同保育を実施し、異年齢の交流を通して思いやりの心を育てている。アソシエやクレドなど会社の基本方針に基づき、一人ひとりを尊重した保育を行っている。 小学校区域ごとの研修会に参加し、小学校との連携を図っている 保育中の子ども同士のトラブルは、職員が一方向的に指示して謝らせることはせず、なぜそのような行為をしたのか理由を尋ね、双方の子ども気持ちを受け止めている。小学校への接続では、副園長が保幼小連絡コーディネーターの役割を担い、青南小学校区域保幼小合同研修会等に参加している。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭が子どもを取り巻く状況や地域の情報を共有するとともに「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き」を活用し、就学までに身につけておきたいことを確認しながら意見交換や授業参観を実施している。	

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当	
	●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当	
	●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当	
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当		
評価項目2の講評				
子どもの様子を保護者に確認し、一人ひとりに配慮した保育を行っている 登園時の健康チェックを入念に行い、いつもと違う様子が見られるときは、園長や看護師に連絡・相談することが習慣化されている。職員が個人で判断するのではなく、看護師の専門的知見や上司の助言の下に適切な対応に努めている。前日には見られなかった傷や痣を発見した場合は、その場で保護者に確認し、保育中の様子を観察している。保護者との口頭確認に留まらず、保育支援システムを活用して保護者からの個別連絡事項を職員間で共有し、個々に応じて援助している。また、これらの状況を日々の視診表に記録している。 基本的な生活習慣の自立に向けて、低年齢児から丁寧に関わり援助している 食事は0歳児の離乳期から「モグモグ」等の言葉を添えて噛むことを知らせ、手づかみで食べる時期を経てスプーン等の食具へ移行している。排泄はオムツ交換の頃から、ひと声かけて子ども自身が歩み寄ってくるのを待つ姿勢を一貫しており、集団でトイレに誘導することはせず、発達段階に応じた援助を行っている。着脱は少人数で取り組み、動作の過程を言葉で知らせ、できたことを認めマイナスな言葉は使わないよう心がけ、丁寧に関わっている。子どもの自分でやりたいという欲求を満たし、自信につなげ生活習慣の自立を促している。 個々に応じた睡眠や休息を保障し、毎日の生活リズムの安定を図っている 眠くない子どもは職員の膝の上で絵本を読んだり、歌に合わせて一定のリズムで揺れながら心地よい眠りに誘っている。子どもからの要求「もう一回」に応え「この絵本を読んだら、そろそろ寝ましょう」と語りかけ、生活リズムの安定を図っている。早く目覚めた子どもを布団に寝かせておくことはなく、事務所や空いている部屋で職員と過ごし、眠りたい子どもと目覚めた子どもの両方を気遣い対応している。5歳児は小学校生活を見据え、1月初旬より午睡をなくし、迷路、ドリル、カードゲームなど静かに遊ぶ環境を整えている。				
3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当	
	●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当	
	●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当	
	●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当	
	●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当	
	●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当	

	評価項目3の講評
	子どもの主体性を重んじ、生活や遊びがより豊かになるようコーナー設定を検討している 毎月のクラスミーティングで、遊び込める空間を作るためのコーナー設定について検討している。机上遊びのコーナーはテーブルの近くにパズルの棚を設け、子どもの動線に配慮している。子どもが自由に選んで組み立てる構成遊びのコーナーは、積木やブロックの種類を増やし、継続して楽しめるよう工夫している。職員は適度な距離を保って遊びを見守り、子ども同士の関係を仲立ちしている。子どもの希望を取り入れ散歩の行き先を決めたり、じっくりと遊び込めるよう仕切りを設けたり、人的環境と物的環境の両側面に気を配り援助している。 年間のテーマを決めて、表現活動を楽しみ、様々に工夫した作品を展示している 日頃、子どもたちが慣れ親しんでいる絵本を題材に年齢別のテーマを決め、クラス毎に制作活動を行っている。訪問調査当日は「親子で楽しめる作品展ウィーク」を開催しており、廊下や天井などの共有スペースを有効に使い、子ども達の作品が展示されていた。絵本の世界から飛び出した主人公が生き生きと描かれ、様々に工夫した立体的で鮮やかな作品が飾られていた。これらの取り組みは子どもの色彩感覚や創造性を養い、イメージや言葉を豊かにしている。子ども達は感じたことを自分の言葉で伝え、表現活動を楽しんでいる。 子どもの目を輝かせるアクティビティやリトミックを取り入れている 毎月の「アクティビティ活動案」に基づき、0～5歳児のイングリッシュ、4～5歳児のアート、0～5歳児のスポーツ、0～5歳児のミュージックのプログラムを専門講師の指導の下に行っている。この活動は会社の保育理念「クレド」に掲げられている「子どもが主体的に遊べる環境」に則して日常保育の一環として行い、子どもが興味を持って主体的に参加することを大切にしている。さらに園独自の取り組みとして、週に一度のリズム表現を行い、ピアノ等の音楽に合わせて体を動かす表現遊び(リトミック)を継続している。

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		
	●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		
	●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○ 非該当
評価項目4の講評				
子ども自身が興味・関心を持って取り組むことを大切に考え行事を実施している 行事の実施に際し、子ども自身が興味・関心を持って取り組むことを前提にするという園としての考えを明確にしている。七夕、新年子ども会、節分会、ひな祭り等の伝統行事は、文化を受け継ぐために由来やその意味を知らせている。例えば、節分会では絵本や紙芝居を導入し、豆まきや鬼退治の意味を子どもに分かりやすく伝え、イメージを膨らませている。0歳児には初めての機会となった作品展では、廊下に展示された他クラスの作品の前で足を止めてじっと見る姿があり、絵本の世界を身近に感じ、子どもの興味を引き出す工夫をしている。 子どもの意見を取り入れ、みんなでやり遂げる楽しさを味わっている 子どもが主体的に関わり楽しく行える行事を目指し、職員間で話し合いを重ねている。主任や園長も話し合いに参加し、詳細を把握した上で行事企画書を作成している。クラスの話し合いの中で提案された子どもの意見を企画に取り入れ、意欲を持って参加できるようプロセスを重視し、園全体で取り組んでいる。運動会のダンスは5歳児が中心となり振り付けを考え、自分達で応援ポスターを制作するなど自ら進んで取り組んでいる。共通の目的に向かって協力し、仲間の力を借りて助け合い、達成感を味わえるよう行事を実施している。 保護者が参加しやすい日程や時間を考え、映像を活用して成長の姿を共有している 年度初めに行事予定表を保護者に配付し、クラスだより等で様子を知らせ理解や協力を得よう努めている。運動会など保護者が参加する行事は、保護者の就労や家庭の事情に配慮して日程を調整し、作品展は送迎時に参観できるよう工夫している。感染症予防の観点から入れ替え制で開催したり、園庭にテレビを運び出してビデオを上映(夏祭り、運動会、ハロウィン、レイニーピアノコンサート等)するなど成長の姿を共有している。行事の終了後は保護者アンケートを実施し、集約結果を周知するとともに次年度の企画に活かしている。				
5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		
	●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		
評価項目5の講評				
長時間保育の疲れに配慮し、ゆったりと安心できるような環境づくりに努めている 延長保育利用及びワンモア利用など長時間保育の子どもに配慮し、保護者の意向に応じて補食や夕食を提供している。急な残業等により急遽延長保育が必要になった場合でも当日の17時まで受け付け、柔軟に対応している。職員は異年齢の合同保育を実施する中で、子どもが安心できる言葉をかけ、スキンシップを図っている。集団生活の疲れが見えてくる時間帯であることを考慮し、会社の方針「楽しくも大変な子育ての負担を理解し、ホッとできる空間とサービスを提供する」を実現するために、親子がくつろげる環境づくりに努めている。 個々のペースや発達に合わせ、子どもが楽しく過ごせるよう工夫している 家庭との連携を密にし、一人ひとりのペースに応じた遊びや玩具の提供など、保育の内容や方法を工夫している。1階の多目的室を使用して夕保育、延長保育を行い、この時間帯ならではの専用の玩具を提供し、年齢の異なる子どもがそれぞれに楽しめる種類を揃えている。保育時間が長く、時間の経過につれて保育形態が変化する環境で過ごす子どもの心情に寄り添い、おんぶひもや体を休めるマットを用意している。常勤職員がローテーションを組み保育を担当し、視診簿を活用して申し送りを行い、保護者への伝達漏れのないよう気を配っている。				

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している 評点(〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当	●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当	●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当	●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○ 非該当
評価	標準項目															
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当														
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当														
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当														
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○ 非該当														
評価項目6の講評 子どもが楽しく喜んで食べられるよう、味付けや盛り付けに工夫を凝らしている 訪問調査当日は、作品展にちなんで絵本「はらぺこあおむし」をモチーフに盛り付けたスペシャルランチを提供していた。食前に「おめめとって」と希望する子どもに応じ、グリーンピースを取り除く職員の姿があり、強制することなく安心して食べられる環境を確認できた。栄養士は各クラスの喫食状況を見て回り、次の味付けを調整している。七夕そうめん、青空ピクニック(ランチボックス)、クリスマス(ロールケーキ、ツリー型ハンバーグ)など、見た目に楽しく季節を感じる盛り付けには、栄養士や調理スタッフのセンスが溢れている。 アレルギー、離乳食など個別に対応し、安全・安心な給食を提供している 入園前面談は保育士、看護師、栄養士が出席し、全職員が子どもの食事に関する情報を共有している。アレルギー児の保護者との個人面談や電話相談を毎月実施し、状況を確認した上で代替え食や除去食を提供している。「保育所におけるアレルギー疾患管理指導表」に基づき、アレルギーチェック表を用いて誤配・誤食を防ぐ対策を講じている。離乳食についても家庭との連携を図り定期的に面談を行い、個々の発達に応じた調理形態を確認している。食器は安全性の高い強化磁器を使用し、感染症に配慮して食卓にパーテーションを設置している。 楽しく食育活動に参加し、食に対する関心を深める取り組みを積極的に行っている 「クイズはてなボックス」による食物に触れる体験をはじめ、子どもが楽しく参加できる食育活動を積極的に行っている。子どもの興味・関心に即した野菜の栽培、SDGsの取り組みなど、様々な活動を通して食についての関心を深めている。卒園児の希望に応じたリクエスト献立「ラーメン」、栄養士の創意工夫による「まるで焼き芋スウィートポテト」など楽しい給食やおやつのは、子ども達からも好評を得ている。今後に向けて、健康を維持する食事の大切さや家族で食卓を囲む大切さを知らせる取り組みを行いたいという園としての意向がある。																
7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○ 非該当	●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当	●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○ 非該当			
評価	標準項目															
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○ 非該当														
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当														
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○ 非該当														
評価項目7の講評 看護師は看護の専門性を発揮して保健教育に携わり、怪我や病気の予防につなげている 子どもが自分の体に興味を持つよう、看護師による保健教育に取り組み、病気や怪我を予防している。どのように行動すれば大きな怪我を防ぐことができるか、元気に遊ぶことができるか子ども自身が考えられるよう援助している。3～5歳児を中心に手洗い指導や虫歯予防について「子どもの歯は何本」、「虫歯になる食べ物」、「虫歯にならないために」などのクイズや絵本の読み聞かせを行い、分かりやすく楽しく学べる機会を設けている。5歳児は「生命の誕生」、「ブライベートゾーン」をテーマに教材を活用し、命の尊さを知らせている。 医師との連携を図り、健康管理や感染症の拡大防止に努めている 乳幼児期は、生涯にわたる健康づくりの基礎になるという考えを持ち、園の嘱託医による健康診断は0歳児は月2回、1～2歳児は月1回、3～5歳児は年2回定期的に行っている。また、歯科健診は6月と11月に実施し、歯科医による歯科教室を年1回実施している。その結果を保護者に伝え、家庭と一緒に良い健康づくりを目指している。看護師はタブレットを持って、毎日3回クラスを巡回し、一人ひとりの健康状態を記録している。港区感染症マニュアルに準じて子どもへの指導、職員指導、各関係機関との協力体制を整えている。 地域や園内の感染症に関する情報を保護者と共有し、健康維持の促進を図っている 「港区立保育園・認定こども園運営ガイドライン」に基づき感染症対策を継続している。地域・園内の感染症の拡大状況等について保護者に情報提供し、各家庭での状況を共有し、衛生管理や健康把握に努めている。保健だよりや食育だよりを配付し、健康な体をつくるために大切なことを知らせ、熱中症や下痢嘔吐症など季節に応じた注意喚起を行っている。規則正しい生活リズム、清潔の習慣、週に一度の爪切りの必要性を伝え、保護者との連携を図っている。乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防については、入園時に資料を配付し説明している。																

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 保護者同士が交流できる機会を設けている</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している</td> </tr> </tbody> </table>		評価		標準項目	●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している
	評価	標準項目													
	●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている													
	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている													
	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている													
	●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている													
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している														
評価項目8の講評															
保護者の就労を支援し、日々の会話や個別面談等、個々の事情に応じた支援を行っている 保護者の就労を支援するために、朝保育、夕保育、20時15分までの延長保育を実施し、急な残業にも柔軟に対応している。日々寄せられる保護者の声に耳を傾け、個別の事情に配慮し、送迎時での対話を大切にしている。直接会うことのできない保護者には、保育業務支援システムを活用して個別に連絡を取り合い、共感的な応答に努めている。年2回の個人面談以外にも保護者の希望に応じて随時行い、子育ての悩みや不安の早期解決を図っている。また、保護者向けカウンセリングを行い、専門家(心理士)が保護者の相談に応じている。 保護者会や保育業務支援システム等で保育の様子を丁寧に知らせ、信頼関係を築いている クラス別に保護者会を開催し、資料を配付して年齢毎の発達の特徴や成長過程を伝えている。年2回の保護者会では、年度前半は保育内容や安全について共通認識を図り、年度後半に保護者同士の交流を企画している。保護者との信頼関係を構築するために、ホワイトボード、区の保育業務支援システムによる連絡、対話を通じて一日の保育の様子を伝えている。保護者が気付いていない発達を具体的に知らせ「そんなことができるなんて」と成長の喜びを共有している。さらに保育ドキュメンテーションを定期的に掲示し、相互理解を図っている。 園行事への参加を促し、園の保育への相互理解と保護者の養育力の向上を図っている 毎月の保育の様子を伝える園だより、子どもの健康や栄養に関する知識を共有する保健だより、食育だよりを発行している。年度当初に年間行事予定表を配付し、親子参加の行事、保護者会、保育参加を案内している。園児と共に活動する中で、子どもの姿や職員の子どもへの関わり方を見て、子育ての参考にしてもらい、保護者の養育力向上につなげている。感染症予防の観点から、参加が難しい行事は映像に収録し、園のテレビを園舎外に運び、レインیコンサートやハロウィンなどの様子を多くの保護者に見てもらい共感を得ている。															
9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している</td> </tr> </tbody> </table>		評価		標準項目	●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当					
	評価	標準項目													
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している														
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している														
評価項目9の講評															
日頃の保育を通して、地域資源を活用した取り組みを行っている 開園以来積み重ねてきた地域との連携により、公共施設とのかかわりが深まっている。散歩中に消防署の前を通った際は署員との挨拶を交わし、消防隊が何秒で消防服を装着できるか見せてくれたり、訓練風景を見学したりしている。警察署に協力を依頼した交通安全教室では、信号機の見方をはじめ、正しい道路の渡り方や歩き方など交通ルールを学んでいる。園行事では、近隣小学校の校庭や体育館を借りて運動会を開催している。このように日頃の保育を通して、子どもが地域とかかわる機会があり、子どもたちの生活の幅を広げている。 地域との関係性を築き、職員以外の様々な人と交流できる場の確保に努めている 近隣の青山公園や園に隣接するグラウンドを活用し、存分に戸外で体を動かす体験を増やしている。これまで実施していた5歳児の近隣小学校・幼稚園や系列園との交流は、感染症に配慮し見合わせているが、放課GO→クラブせいなん学童クラブとの交流を継続している。今年度も学童クラブで実施されたお祭りに参加し、写真を撮ったりゲームを楽しむ親子の姿があった。コロナ禍の影響により計画通りにいかない状況下にあっても、地域とのつながりを大切に考え、実施可能なことから取り組み、従来の活動を再開できる時期に備えている。															

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル①	栄養士が年齢別の企画書を作成し、子どもの興味・関心に即した食育活動を展開している	
内容①	栄養士による食育活動を進める中で、コロナ禍だからと諦めるのではなく、安全に楽しくできる方法を考え工夫している。グリーンピースのさやむき、野菜スタンプ、干しシイタケやひじき等の乾物に触れる機会、枝豆の栽培と収穫後の皮を乾燥させた肥料作り、本物の調理器具名を知る体験など、食物への興味・関心を高めている。廊下に設置した手作りのキッチンでは、フライパンや鍋を揺すり、おたまやフライ返しで調理の模倣遊びを繰り返し広げている。新米のおにぎり作りでは、子どもが米を研ぎ、投票により具材を決めて、自分達で握り味わっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	ICT化の推進で子どもや保護者の状況を、職場全体で情報共有し速やかに対応している	
内容②	保育業務支援システム導入で、保育指導計画や個別計画、家庭との連絡等、情報共有が効率的に運用されている。合同保育や保育応援等、個々の子どもの発達や興味関心の情報共有により、遊びや生活面の援助に活用されている。システムの園内連絡の他に、日々の昼ミーティングに担任、園長、副園長、看護師、栄養士、事務が参加し、子どもや保護者のニーズ対応が、職種間連携でタイムリーに取り組まれている。昼ミーティングや会議等に不参加の職員は、記録閲覧後にサインを行うことで未確認者の把握ができ、徹底した情報の共有化が図れている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル③	ヒヤリハット記録を丁寧に集計して、事故の防止と、起こりうる状況の把握に努めている	
内容③	事故の削減に向けて、ヒヤリハット記録を丁寧に記録することを目標としている。一般的に、1件の重大事故には300件のヒヤリハットがあると言われている。園では職員にどのような気になる事象も記録として残すよう定めている。保育中に起こったことから、調理、事務連絡に至るまであらゆる記録を残して、原因究明に努めている。さらに、これらを集計して時間帯、年齢、場所等の傾向を掴み、再発防止につなげた地道な取り組みによって事故（つまりインシデント・アクシデントレポート）の削減につなげている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	例月のおたよりに加え、子育てに役立つ情報を掲載した「ひまわり通信」を発行し、子育て支援につながる園独自の取り組みを行っている
	内容	園だより、保健だより、食育だより、クラスだよりに加え、園独自に「ひまわり通信」を作成している。職員提案を反映し、保護者と職員が共に手を取り合い、子どもの成長を見守っていけるよう、子どもの人権や自立心などテーマを設け、子育てに役立つ情報を発信している。家庭教育に参考となる書籍や、ふれあい遊びの紹介は保護者に好評で「自宅でもやってみました」、「次の発行はいつですか」等の声が寄せられている。保育理念「楽しくも大変な子育てを理解し、保護者の気持ちに寄り添い支援する」を実現させる取り組みとなっている。
2	タイトル	公的な地域資源を積極的に活用し、子どもが自然に触れる経験や身体を思いきり動かして遊ぶ園外保育の充実が図られている
	内容	都会の中心だが、保育室一帯は学童クラブ、小学校、幼稚園、系列保育室、芝生広場があり、空や風、光、植物や樹木等、自然に親しみ五感を刺激して安全に戸外遊びができる環境がある。散歩は地域の公園を活用し、安全確保しながら固定遊具や地域に触れる園外保育も取り入れている。玄関には、散歩マップが掲示され、保護者からのアクティビティ活動と戸外遊びに期待する声に応えている。園生活の一日では、静的・動的活動のバランスが配慮され、午後のおやつ後も芝生広場で、大縄飛びやかけっこ等身体を動かす戸外遊びが充実している。
3	タイトル	クレドカードの携行によって、常に事業の原点に立ち返るよう道筋を示している
	内容	園は保育を行う上の理念として、「子ども」「保護者」「社員」「地域・社会」への約束を掲げている。これらを実践するために具体的な課題を「クレド」として、1枚のカードにまとめて各職員に配布している。職員は、会議や日常の会話でも、常にクレドを意識して、組織の一員としての自覚や業務への満足度やコンプライアンスへの意識を高めた上で臨んでいる。その例として、子どもが主体的に遊べる環境をつくるため常に原点に立ち返って、職員同士で取り組みを進めることで一致している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	感染症の拡大状況に注視しながら、地域交流など子育てに関わる全ての人々への支援の再開と地域福祉に貢献する取り組みが期待される
	内容	感染症予防の観点から、園の特性を活かした育児相談や、子育てひろば等の地域子育て支援に関する活動を見合わせている。乳幼児の親子と園児との交流は計画通りに進めることが難しく、地域の保護者を対象とした支援の開始時期を検討している。コロナウィルス感染症終息後は、地域のニーズを把握した上で、園行事への参加を呼びかけ、地域の方を園に招いたイベントや交流を実施し、保育理念に掲げている「感謝の気持ちを持って地域の方たちとのつながりを大切に、共に育ち合う」ことへの更なる充実に向けた事業の展開が期待される。
2	タイトル	子どもが好きな遊びを選択・決定する意思の尊重を実現するために、玩具やコーナーの環境構成の更なる充実が望まれる
	内容	保育力の向上を目指し「子どもの主体性を育む」保育課題に、園全体で取り組み始めている。園内研修で、職員が環境構成の重要性について考える、他園の見学で学ぶ等、職員の意欲を引き出す具体策が検討されている。玩具棚や玩具の設定はされているが、コーナー遊びの配慮は少ない。子どもが落ち着いて遊べるコーナー作り、年齢・発達に配慮した遊びの種類や玩具設定等、更なる改善が望まれる。乳児期から系統立てられた遊びの環境構成は、好きな遊びの意欲、得意な遊びの自信の力となる。今後の取り組みに期待したい。
3	タイトル	職員会議の時間を単に報告事項で終わらせるだけでなく、意見交換の場としても更に充実させることを期待したい
	内容	職員会議は月に1回開催し、各担当者及び専門職からの報告等を行っている。また、港区や本部からの周知事項の説明も職員会議の必要な役割である。これらは事前に資料として配布し、参加者は事前に読み込み、効率的に進めることが求められている。今年度より、保育業務支援システムの導入によって全体周知がしやすい状況になってきている。従って、会議の工夫によって、報告や周知事項のみならず、意見交換の場として、チーム力の向上に役立てていくことを期待したい。